SHIRAI

取扱・組立説明書

管理番号

R120626-Ha

セパレア
製品名 SPR-8511F BNA/DK/IV-00

この度は、お買い上げいただきありがとうございます。
この説明書はお使いになる方が、いつでも見られるよう
大切に保管して下さい。

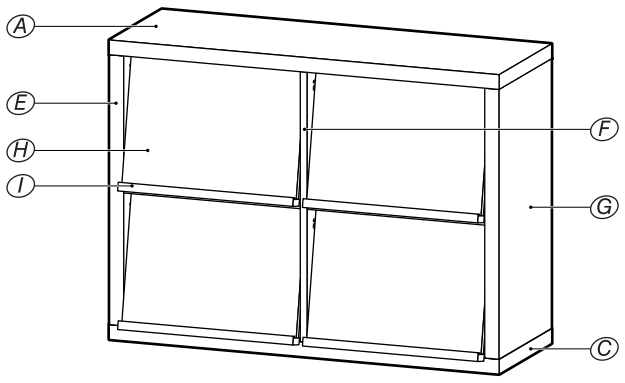
**この説明書には、製品を正確に組立て、
末永くご愛用していただく為の情報が記されております。
本書の指示通り組立て、ご使用下さい。**

天板 耐荷重 30kg

中棚 耐荷重 7kg

引手受け 耐荷重 2kg

上記の範囲内でご使用下さい。



《組立て前に下記注意事項を必ずお読み下さい》

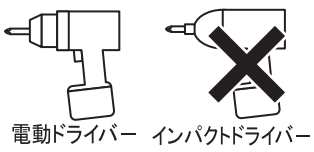
不用意・不適切な組立ては事故につながる恐れがあります

- ダンボール箱からの取り出しや、組立ては2人以上でおこなってください。
- 工具等の取り扱いには充分ご注意ください。
- プラスドライバーの先端 十字は、ネジの十字と合ったものをご使用ください。
- 組立ての際は、製品部材・部品の角でのケガや、床・壁など、室内をキズつけないようご注意ください。
- 組立ての際は、お子さまに注意し広い場所でおこなってください。
- 組立て手順に従って部材の取付け、ネジ締めなどを確実におこなってください。
  組立て手順が違うと組立てられない場合があります。
  また、部材の取付け、ネジ締めなどが不充分ですと使用中に製品が破損しケガをする恐れがあります。
- ネジ締めが固い場合には、家庭用のロウや石けんをネジに塗ると入りやすくなります。
- ボンドを使用して固定する部材は、10分程度で固まり始めます。
  作業を途中で放置すると、隙間や、ゆがみが発生しても修正できなくなる場合があります。
  組立て方などに疑問がありましたら、すぐにご連絡いただくか、連絡できない状況の場合は部材が
  固定されないように、一旦取り外してからフリーダイヤルへお問い合わせください。

組立てに必要な工具です。ご用意下さい。

電動工具を使用する場合の注意

電動ドライバーは締め付けトルクを弱く設定し、様子を見ながら調節してご使用下さい。インパクトドライバーは部品や部材を破壊する恐れがありますので使用しないで下さい。

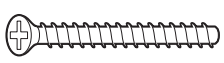
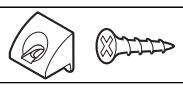
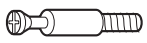
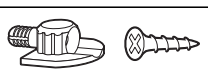
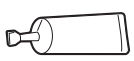
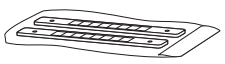
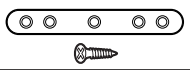


PARTS CHECK

最初に必要な部品・部材がそろっているかご確認下さい。

部品

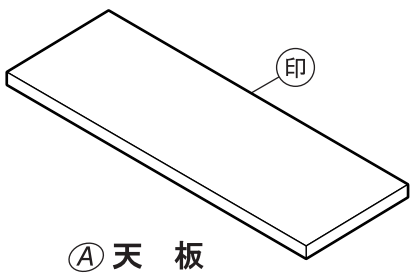
細かい部品は、箱などにまとめると、紛失を防ぎ組立て作業がスムースです。

かたち	なまえ	数	チェック
	組立ネジ	6	
	木ダボ	18	
	背板ストッパーセット（ストッパー＋固定ネジ）	4	
	ジョイントボルト	8	
	ジョイント受	8	
	棚受ジョイントセット（ジョイント＋固定ネジ）	8	
	回転ピン	8	
	ボンド	1	
	免震補助バンドセット	1	
	I金具（アイ金具）セット（I金具×2+固定ネジ×10）	1	
	ローラー	8	
	ワッシャー	8	
	丸クッション	8	

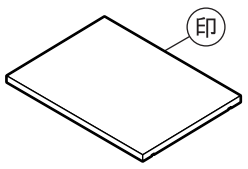
※丸クッションは、取扱・組立説明書と一緒にビニール袋に入っています。

部材

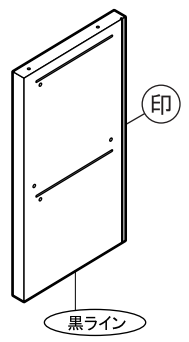
印 には、部材名称が印刷されています。



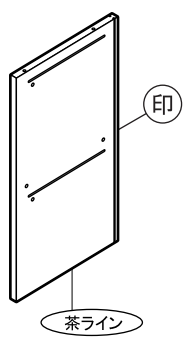
Ⓐ 天　板



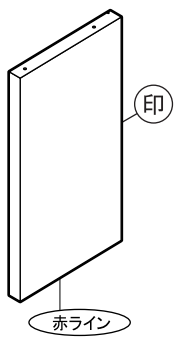
Ⓑ 中　棚×2



Ⓔ 左側板

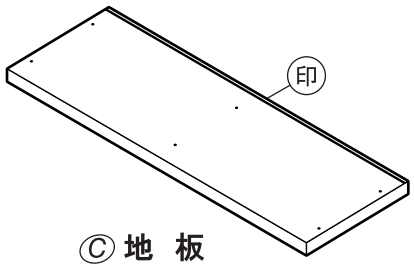


Ⓕ 中仕切

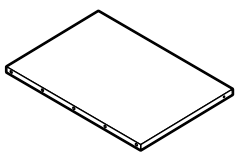


Ⓖ 右側板

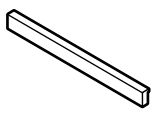
ⒺⒻⒼには上下方向があります。組立 5 ではご注意下さい。



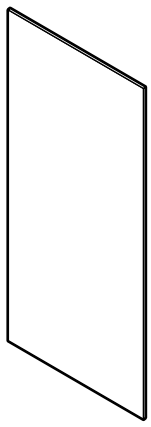
Ⓒ 地　板



Ⓗ 前　板×4



Ⓘ 引手受け×4



Ⓓ 背　板×2

お問い合わせ

●製品には万全を期しておりますが、万一不都合な点がございましたら

お手元にこの説明書をご用意の上、

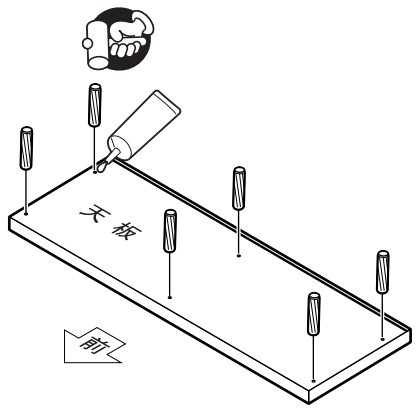
0120-22-1378 までお寄せ下さい。受付時間／9:00～17:00（土・日・祝祭日は休み）

株式会社 白井産業／藤枝DC
〒426-0053 静岡県藤枝市善左衛門（ぜんざえもん）1471-2
http://www.shirai-s.co.jp/ E-mail:sri@shirai-s.co.jp

1 天板に木ダボを取付けます。

	木ダボ	6

（ボンドを入れて下さい）



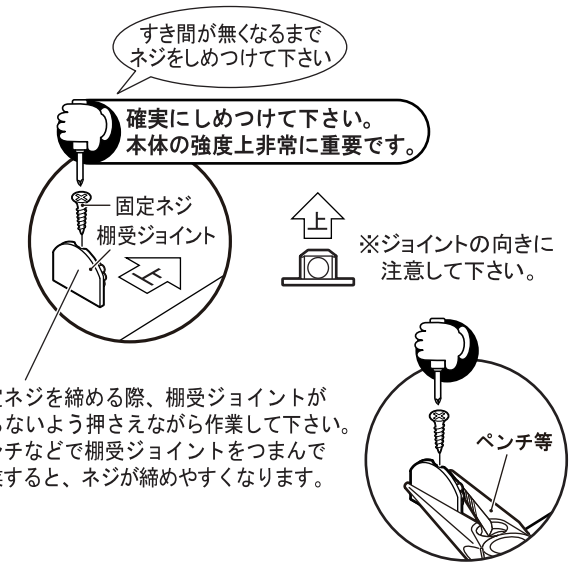
2 左右側板・中仕切にローラー・棚受ジョイントを取付けます。

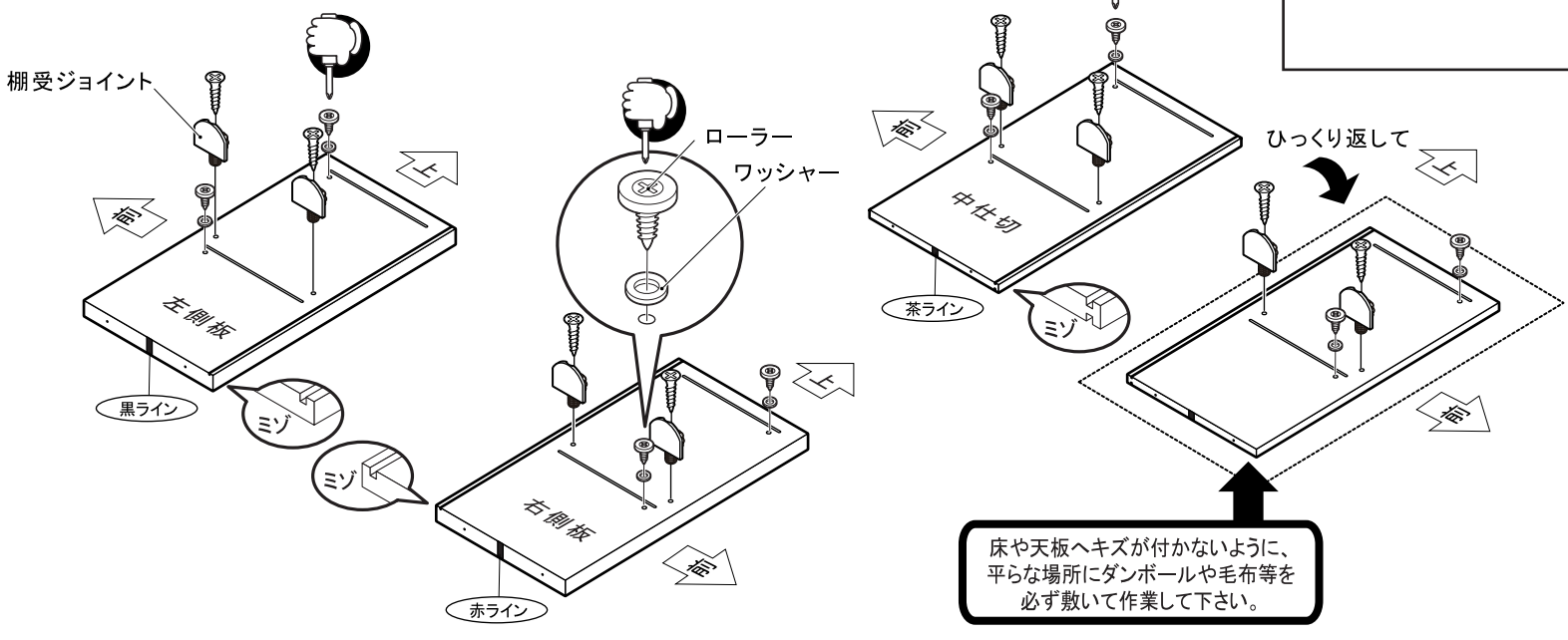
	ローラー	8
	ワッシャー	8
	棚受ジョイント	8
	固定ネジ	8

棚受ジョイントは、イラストを参照の上、正しい場所に取付けて下さい。

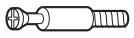
ポイント

側板・中仕切に棚受ジョイントを差込み、固定ネジで固定します。

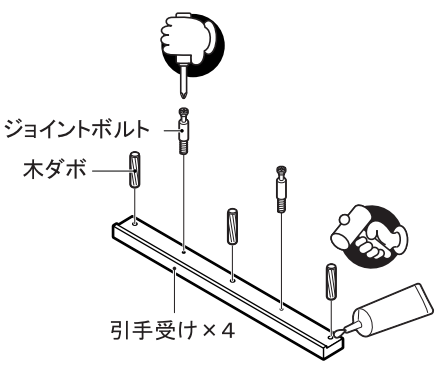




3 引手受け（×4）に木ダボ・ジョイントボルトを取付けます。

	ジョイントボルト	8
	木ダボ	12

（木ダボの入る穴にボンドを入れて下さい）



木ダボは、イラストを参照の上正しい場所に取付けて下さい。

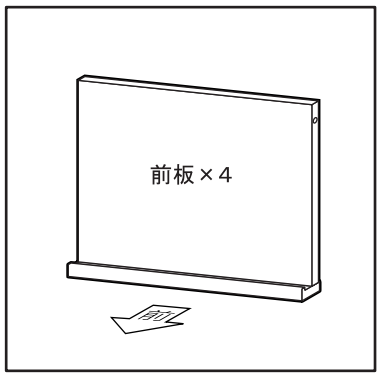
4 前板（×4）に引手受け（×4）を取付けます。

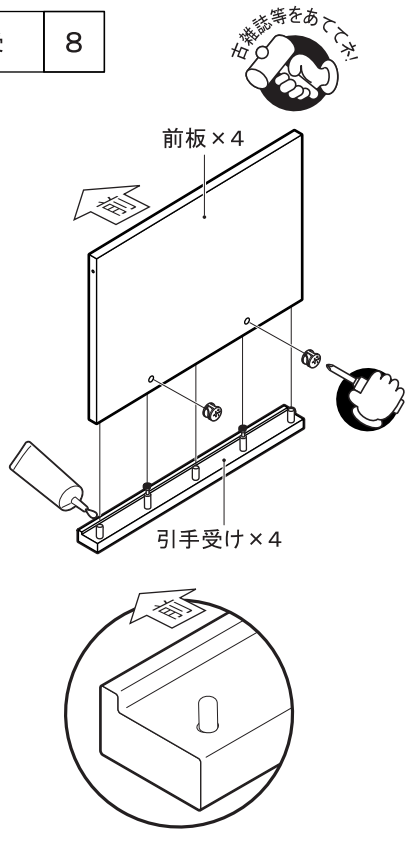
	ジョイント受	8

（木ダボにボンドを塗って下さい）

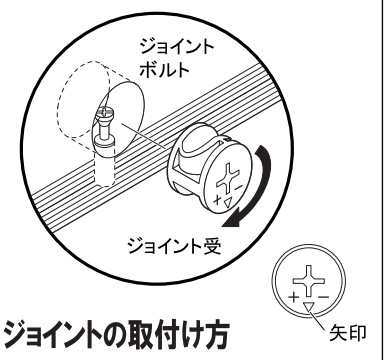
ポイント

前板は穴が開いてない面を前（表）に、引手受けは前（表）に飛び出るように組立てます。





ポイント



ジョイントの取付け方

ジョイントボルト・ジョイント受は前板と引手受けを固定させます。

①取付けたパーツの穴に〈ジョイント受〉の矢印を〈ジョイントボルト〉が入ってきた方向に向けて差込みます。
②⊕ドライバーで〈ジョイント受〉を右回りに止まるまでしっかりと回して下さい。
（目安：１２０°～１８０°程度）

5 地板に左右側板・中仕切を取付けます。

	組立ネジ	6

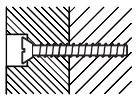
ポイント

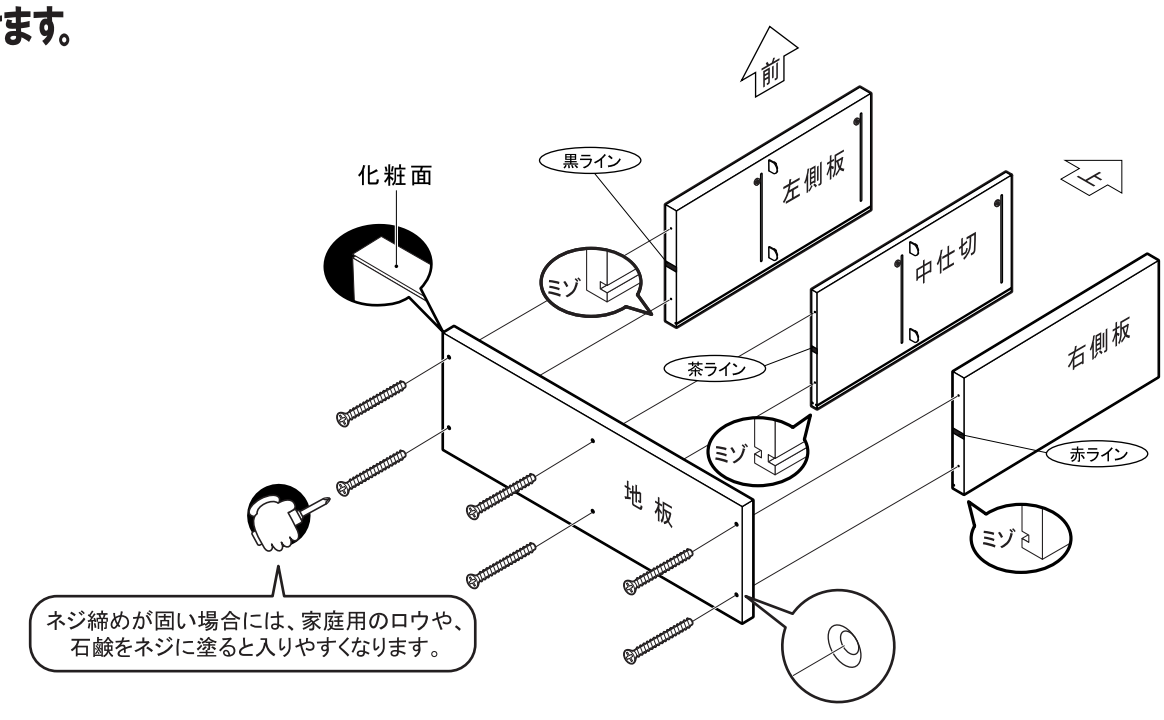
左右側板・中仕切はラインの付いている方を地板に向けて取付けて下さい。

向きを間違えると、組立ネジが締まりません。

ポイント

組立ネジの頭が出ないように
しっかりと地板に締込んで下さい。



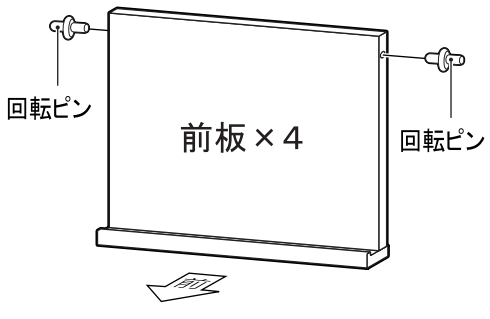


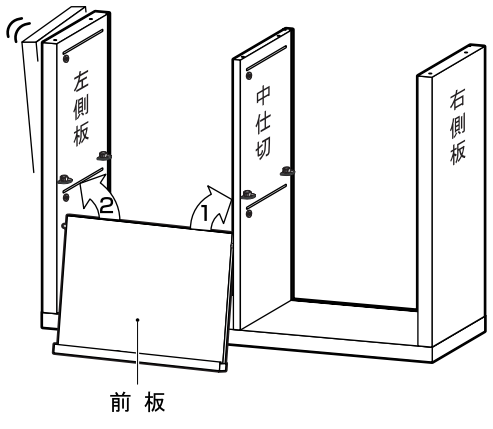
6 本体に前板(×1)を取付けます。

	回転ピン	8

注 意 前板は、一度取付けると取り外しができません。
今一度、表裏が合っているか、ご確認下さい。

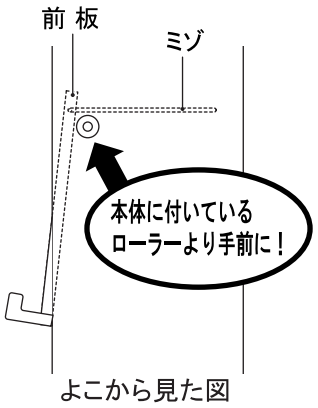
前板に回転ピンを差込みます。





ポイント

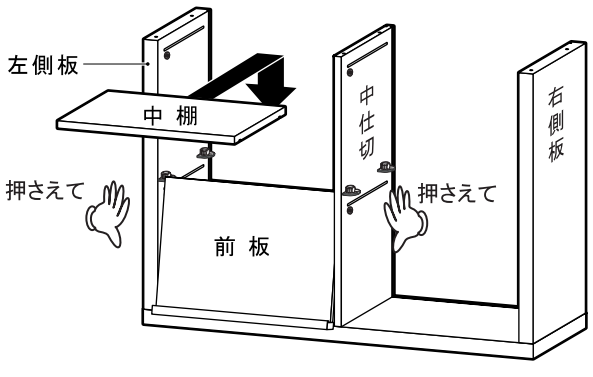
1. 中仕切のミゾに前板の右側の回転ピンを差込みます。
2. 前板の左側に付いている回転ピンを左側板を少し広げながら左側板のミゾに取付けて下さい。その際、側板・中仕切にキズが付かないように注意して下さい。



よこから見た図

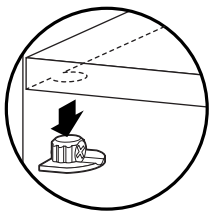
7 本体に中棚(×1)を取付けます。

注意 組立 6 で取付けた前板が外れ、落ちないように中棚を取付けて下さい。



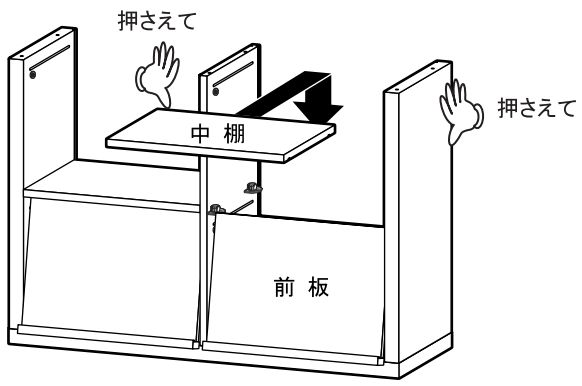
ポイント

**棚受ジョイントに
中棚を取付けます。**

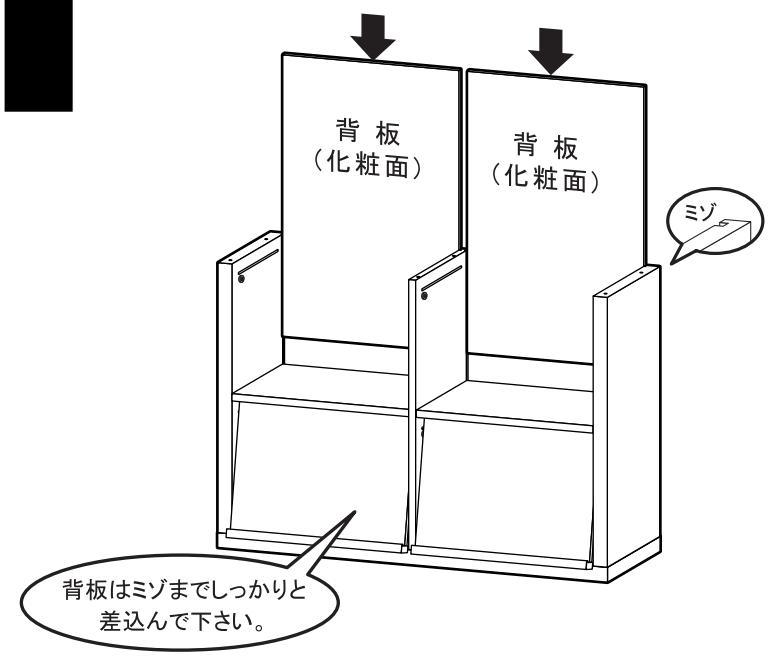


★中棚がうまく取付けられない場合は、本体が少し膨らんでいる可能性があります。本体を外側から押さえてから取付けてみて下さい。

8 反対側も同様に前板(×1)・中棚を取付けます。

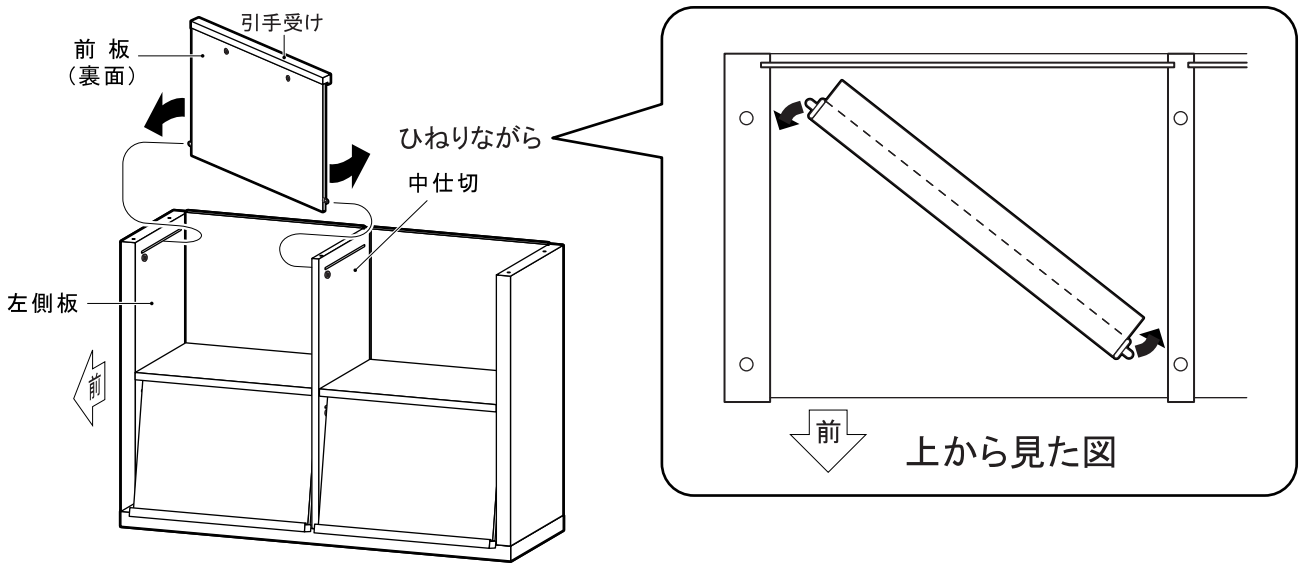


9 背板(×2)を差込みます。



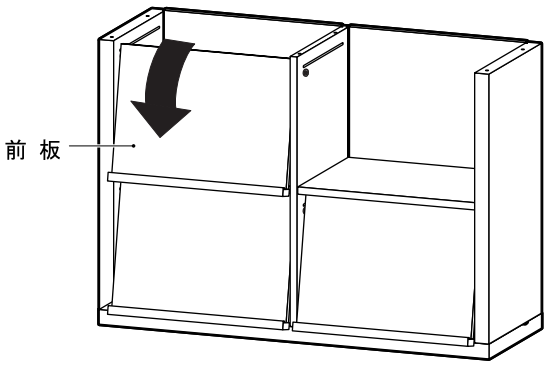
10 本体に前板(×2)を取付けます。

① 前板は引手受けを上にしてひねりながら、回転ピンを側板・中仕切のミゾに入れます。



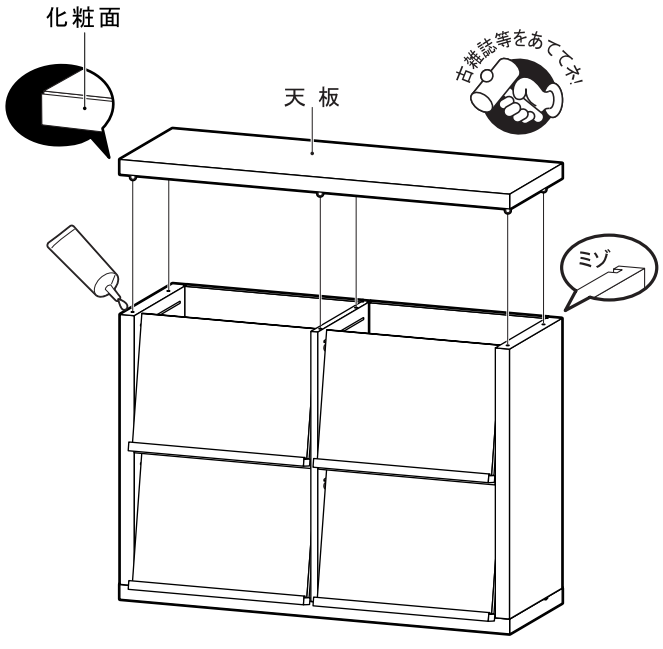
② 前板を手前に下ろします。

★反対側の前板も同様に取付けます。



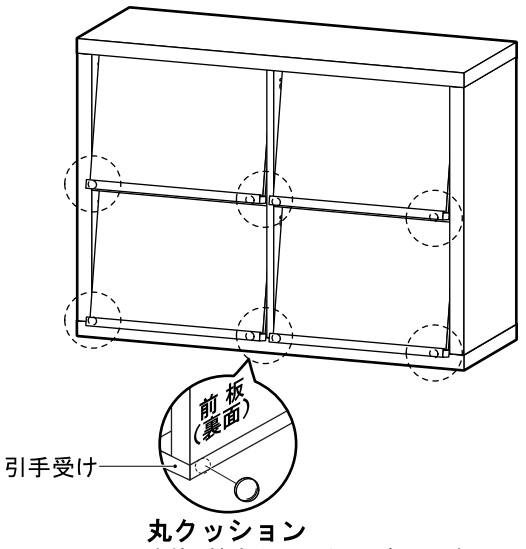
11 天板を取付けます。

(ボンドを入れて下さい)



12 丸クッションを取付けます。

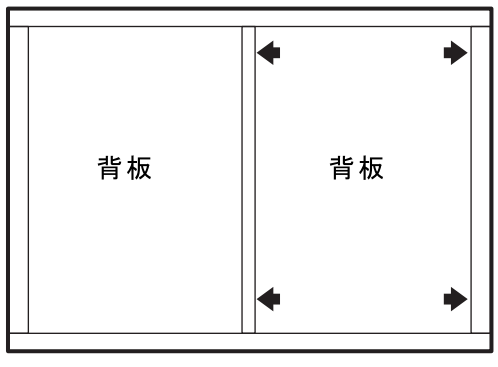
⬭	丸クッション	8



丸クッション
本体と接する引手受けの裏面に貼って下さい。

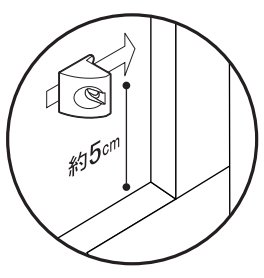
15 背面に背板ストッパーを取付けて完成です。

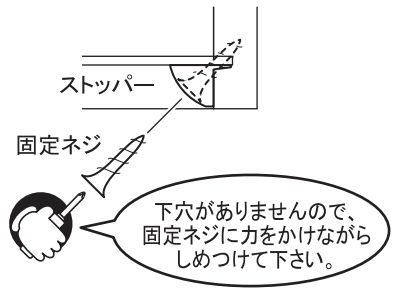
	ストッパー	4
	固定ネジ	4



ポイント

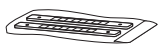
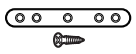
●背板ストッパーは、完成時の家具のガタツキや揺れを抑える効果があります。





1 左図の矢印の位置の背板溝に、ストッパーの爪を差し込みます。
2 ストッパーを固定ネジでしめつけます。

別売りアイテムと組合せてご使用になる場合

	免震補助バンドセット	1
	I金具セット （I金具×2+固定ネジ×10）	1

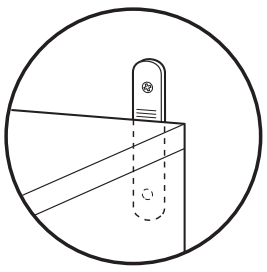
★本品はSPR-1111、SPR-8011を上に積み重ねて使用できます。

※本製品を単体で使用する場合は、I金具、免震補助バンドは大切に保管して下さい。

ポイント

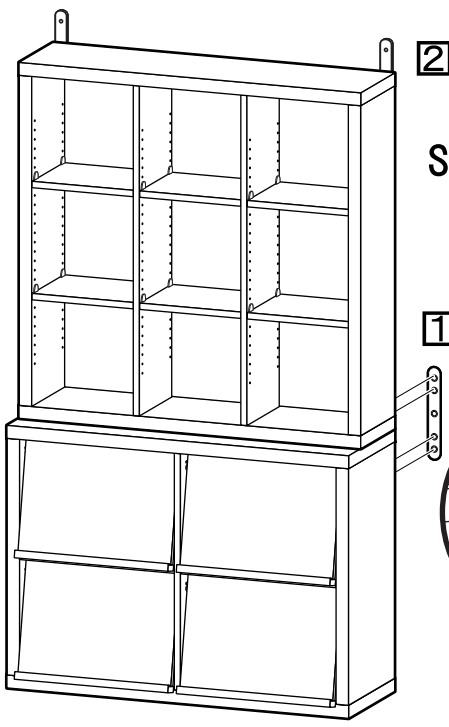
1 I金具で連結します。
2 免震補助バンドで壁面に固定します。

2人での作業がより
安全でスムーズです



免震補助バンド

家具の側板背面と壁面を
樹脂製のバンドにより連結固定し、
前倒れしにくくします。
※取付け方はバンドに同封されている
説明書をご参照下さい。



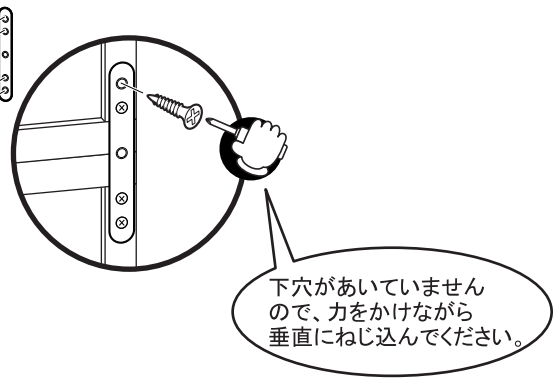
2

SPR-1111

I(アイ)金具

上台と下台を固定する
連結金具です。

1



※商品を壁に寄せる際、金具で壁を傷つけることがありますので十分ご注意下さい。

注意
I金具を取付けた状態で上台だけを
持ち上げないで下さい。
家具が壊れたり、安定をくずし倒れて
ケガをするおそれがあります。

SHIRAI

組立てかた　SPR-8511F BNA/DK/IV　セパレア SEPAREA

6/6

R120626-Ha

安全上の注意（必ずお守りください）

お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを、説明しています。

── 不用意・不適切な組立て、および、誤った使い方をしたとき生じる危害や損害の程度を次の表示で区分し、説明しています。──

表示の説明	⚠警告	この表示の内容を無視して、不用意、不適切な組立て、および、誤った使い方をすると、人が死亡または、重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。	⚠注意	この表示の内容を無視して、不用意、不適切な組立て、および、誤った使い方をすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

設置方法 設置環境に関する警告・注意事項

警告

- **家具はガタツキのないよう、水平を保つように置いてください。**
  床に傾斜や段差のある不安定な場所への設置は、扉の開閉や引出しの出し入れがスムーズでなかったり、イスの強度が落ちるなど、家具が故障する原因となったり、倒れてケガをするおそれがあります。
- 地震などで家具が倒れないように室内の壁、床、天井などに固定用金具で固定するなどしてください。固定できない場合は、家具の置き場所や置き方を注意してください。また、背の高い家具の上には物を置かないでください。転倒や落下によりケガをすることがあります。
- 二段重ね、三段重ねの家具で、連結金具が付属されている製品は、上下段を連結金具でしっかり止めてください。また、横に連結する家具も連結金具でしっかり止めてください。
  倒れてケガをすることがあります。

注意

- 直射日光や冷暖房機の強風などが直接当たらないようにしてください。家具の変色、そり、ヒビ割れ、ゆがみの原因となります。
- 高温・多湿の部屋で空気が滞留したままの状態では、湿気などでカビやダニが発生しやすくなりますので、健康を害さないように家具の裏側にも空気が流れるように壁から少し離したり、部屋の換気をしてください。

使用方法 取り扱いに関する警告・注意事項

警告

- **表示耐荷重以上の物を家具に置かないでください。**
- 家具の上に立ったり、とんだり、踏み台代わりに使ったり、不安定な姿勢で腰掛けたりしないでください。家具が壊れる原因となります。また、安定をくずし倒れてケガをするおそれがあります。
- 引出しや引手の上に乗ったり、扉などにぶら下がったり、無理な力で引っ張ったりしないでください。また、扉や引出しを同時にいくつも開けたり、引き出したりしないでください。
  重心が前に移り転倒するなどしてケガをするおそれがあります。
- 可動部のある家具は、その操作で手を挟んだりしないように充分注意してください。
  ケガをするおそれがあります。
- 電気製品等を収納する場合は、充分隙間をあけて通気性を良くしてご使用ください。電気製品の故障や火災の原因になります。
- 分解や不当な修理、改造をしないでください。破損やケガをすることがあります。

注意

- 家具を移動する時は、収納物を入れたままや、ガラスをはめたまま移動させないでください。また、床の上を押したり、引きずったりせずに2人以上で持ち上げるなどして運んでください。床をキズつけたり、収納物やガラスの落下によりケガをするおそれがあります。
- 天板には不安定な物をのせないでください。また、家具の安定性を保つためにも重い収納物はなるべく本体の下の方に収納するようにしてください。
- 天板、棚板などの上に灰皿や食器など、底のざらついた物を直接置いて引きずったりすると傷が付く事がありますのでご注意ください。
- 家具の表面（プリント化粧紙）にシールや粘着テープなどを貼らないでください。はがす時に家具表面材がいっしょにはがれるおそれがあります。
- ストッパーの付いていない引出しは抜け落ちないように、いっぱいに引き出さないでください。落下によりケガをすることがあります。
- フットの先端や、イスの脚先などによる床材の傷を防止するため、脚先にフェルトを取りつけるか、ラグ・カーペットなどの敷物を敷いてご使用ください。フローリングの材質には様々な種類があり、硬い材から軟らかい材まで多様です。材質によっては、ご使用中に傷をつけてしまうおそれがあります。
- 取りはずしのできる棚板は、棚受具・棚受ダボを確実に取り付けてください。中途半端な取り付けでは棚板がはずれて物が落ち、破損やケガをするおそれがあります。
- 製品に水や蒸気をかけたり、直接熱い物やぬれた物を置かないでください。
  製品を傷めます。

使用中に関する注意事項

注意

- ごくまれに木材の接着剤に含まれるホルムアルデヒドが残っている場合があります。
  肌の弱い人はアレルギー症状をおこす場合がありますので、使い始めには換気を充分にしてください。
  尚、生後24ヶ月未満の乳幼児の衣類は臭いがつかないようビニールやポリ袋に包んで収納してください。
- 家具に被害を与える虫害（木材の表面に木屑が噴出し、1～2ミリほどの穴）を発見した場合は、直ちに市販されている木食い虫用の殺虫剤で殺虫や防虫処理をしてください。
  放置すると虫害が拡大するおそれがあります。
- 異常を発見したら、そのまま使用せず弊社フリーダイヤルまでお問い合わせください。
  破損やケガをすることがあります。

保守 点検に関する警告事項

警告

- **ときどき各部のネジ類がゆるんでいないか点検し、増し締めをしてください。**
  ゆるんだまま使用すると破損や倒れてケガをすることがあります。

その他 注意事項

注意

- お買い上げ後の、輸送・移動・落下などによる故障・破損に対する対応は致しかねます。
- 取扱説明書の注意事項をお守り頂けなかった原因による損傷、また、仕様の限度を超えた使い方をした場合の故障・破損に対する対応は致しかねます。
- 天災などの不可抗力による故障・破損に対する対応は致しかねます。

お手入れ方法

① お手入れには、柔らかい布をお使いください。
② 汚れを落とす場合は、カラ拭きまたは、ぬらして固く絞った布などで拭いてください。
③ 汚れのひどい場合は、薄めた中性洗剤を使って汚れを取り、ぬらして固く絞った布にて洗剤が残らないよう拭き取り、
さらに仕上げは、乾いた布で水分を充分に拭き取ってください。

- 化学雑巾を長い間接触させたままにしておくと、変色したり、表面がはげたりする事がありますのでご注意ください。
- **シンナー・アルコール類など溶剤は表面を傷めますので絶対に使用しないでください。**

SA・FU
無断転用を禁ず